

ODIP 4.4 修正パッチ (P1040401005797) リリースノート

2023/12/15

(株) インテリジェント・モデル

ODIP は、(株) インテリジェント・モデル社の登録商標です。

本書に掲載された情報に基づいた行為の結果として発生した損害、利益の損失、経費などについて、(株) インテリジェント・モデルならびに本書の製作関係者は一切の責任を負いません。

本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部を無断で転載・複製することは法律で定められた場合を除き、禁止されています。

目 次

A. 変更内容	4
1. HiRDB で大文字と小文字を区別するオプションの追加	4
B. パッチ適用による影響	4
1. HiRDB で大文字と小文字を区別するオプションの追加による影響	4
C. パッチの適用方法.....	5
1. ライブラリファイル、設定ファイルの更新	5
2. パッチ適用後の確認.....	6

A. 変更内容

1. HiRDB で大文字と小文字を区別するオプションの追加

HiRDB をデータソースとして ODIP のバッチ処理を実行する際に、ユーザ名、パスワード、スキーマ名にアルファベットの小文字が混在していると、名前が識別できず処理が異常終了する場合があります。ODIP はユーザ名、パスワード、スキーマ名の大文字と小文字を区別せずに一律大文字に変換して扱いますが、HiRDB 側で大文字と小文字を区別する設定にした場合、不一致となる事でこの問題が発生します。

本パッチでは、大文字や小文字に関わらず、ODIP のバッチ処理が正常に稼働するように、設定ファイルに大文字と小文字を区別するオプションを追加しました。オプションを設定するには、ODIP の DBMS 設定ファイル (hirdb.properties) に以下の行を追加します。

```
name.case_sensitive = [true | false]
```

HiRDB 側で大文字と小文字を区別する設定になっている場合、当オプションに true を指定する事で大文字と小文字を区別する事が出来ます (大文字に変換されずに引用符 (") で囲んで SQL が発行されます)。false を指定すると従来と同様、大文字と小文字は区別されません。オプション省略時の値は false となっており、DBMS 設定ファイル (hirdb.properties) のデフォルトでは当オプションは省略されております。

なお、本パッチの改定範囲は、HiRDB をデータソースとして処理を実行する場合と、HiRDB のデータベースにトランスフォーマリポジトリを作成、参照する場合に限定されています。他の RDBMS が関係する処理に影響を及ぼすことはありません。

B. パッチ適用による影響

1. HiRDB で大文字と小文字を区別するオプションの追加による影響

HiRDB で大文字と小文字を区別するオプションを有効 (name.case_sensitive = true) にした場合、ODIP でデータソース情報やデータセットのスキーマなどに設定されているユーザ、パスワード、スキーマ名を引用符 (") で囲んでいる場合は、引用符を取り除く必要がございます。

C. パッチの適用方法

本パッチは、次の ODIP 製品に適用してください。

- ODIP アドミニストレータ v4.4
- ODIP オペレーションマネージャ v4.4
- ODIP リポジトリマネージャ v4.4
- ODIP プロセスマネージャ v4.4
- ODIP リポジトリサーバ v4.4
- ODIP トランスフォーマ v4.4

1. ライブラリファイル、設定ファイルの更新

実行中の ODIP 製品を終了し、ODIP_P1040401005797 フォルダに格納されているライブラリファイル、設定ファイルを、表 1 のファイルのコピー先に上書きコピーしてください。

表 1 ODIP_P1040401005797 のフォルダ構成及びファイルのコピー先

ODIP_P1040401005797	ファイルのコピー先
lib	
ADM	ODIP アドミニストレータの lib フォルダ
OPE	ODIP オペレーションマネージャの lib フォルダ
RPM	ODIP リポジトリマネージャの lib フォルダ
RPS	ODIP リポジトリサーバの lib フォルダ
TFM	ODIP トランスフォーマの lib フォルダ
hirdb.properties※	各製品 (ODIP リポジトリサーバを除く) の config フォルダ

※大文字と小文字を区別する設定を入れた HiRDB 用の DBMS 設定ファイルです。大文字と小文字を区別する場合は、本ファイルを各製品 (ODIP リポジトリサーバを除く) のインストールディレクトリ直下にある config フォルダに複写してください。既に同じファイル名の設定ファイルが config フォルダに存在する場合は、複写はせず既存の設定ファイルに以下の 1 行を追加してください。

```
name.case_sensitive = true
```

大文字と小文字を区別しない場合は、本ファイルの複写、設定は不要です。

2. パッチ適用後の確認

パッチ適用後は、各製品を起動し、表 2 の確認方法に従って確認を行ってください。

表 2 パッチ適用後の確認方法

製品名	確認方法
ODIP アドミニストレータ	ヘルプメニューから“ODIP について”を選択し、表示されたすべてのビルド ID が 1040401005797 であることを確認してください。
ODIP オペレーションマネージャ	
ODIP リポジトリマネージャ	
ODIP プロセスマネージャ	
ODIP リポジトリサーバ	ODIP リポジトリマネージャのツールメニューから“ORMS サーバ情報”を選択し、“バージョン情報”タブを開き、表示されたすべてのビルド ID が 1040401005797 であることを確認してください。
ODIP トランスフォーマ	ODIP トランスフォーマを起動し、showserver コマンドを、オプションに“-info version”を指定して実行してください。表示されたすべてのビルド ID が 1040401005797 であることを確認してください。

以 上